

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2970100281		
法人名	社会福祉法人 晃宝会		
事業所名	グループホームあじさい園 ふるさと		
所在地	奈良市茗荷町805-1		
自己評価作成日	平成26年11月15日	評価結果市町村受理日	

基本情報リンク先

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット		
所在地	奈良県奈良市登大路町36番地 大和ビル3階		
訪問調査日	平成26年12月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームあじさい園は、奈良市東部山間にあり、居間の窓からは田んぼや山が見え四季を感じる事が出来ます。自治会に加入し地域の行事や小中学校の行事には積極的に参加し地域の方々との交流を深めています。また、家族会があり、年2回の家族会での清掃、秋祭りの参加等家族との交流や信頼関係の構築に努めています。職員は、尊厳の気持ちと思いやり笑顔を忘れないように日々心がけています。入居者様がその人らしく生活出来るように支援しています。ご本人の意思を尊重し、その人らしく過ごせる環境づくりに気を配り外部との交流を持つよう配慮、職員教育に力を入れ一人ひとりが自ら向上するよう法人は工夫しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは奈良市東部山間部の、のどかな風景の中にあり隣接する敷地内には法人の特養が併設されている。法人理念の平成26年度の目標「尊厳を守る」を実践するためホーム独自の目標「生活リズムを大切にその人らしく、笑顔を大切に利用者向き合う」を掲げ実践につなげている。地域や家族との交わりを大切に考え地域行事へは積極的に参加し法人の行事には地域の伝統芸能を招くなど家族参加の行事も多く利用者共々楽しんでいる。法人は口腔ケアに力を入れ最新の超音波口腔内洗浄器も備え専門家によるケアを行い利用者の健康、長寿につながる取り組みがなされている。利用者は、ゆったりと思いきい場所で過ごし、いろんな年代の職員がやさしく見守っているホームである。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+)です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
houjinnrine					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝グループホームの運営理念を復唱し事業所理念の周知徹底に努めている。	法人理念平成26年度の目標「尊厳を守る」を実践するため、ホーム独自の目標「生活リズムを大切にその人らしく、笑顔を大切に利用者向き合う」を掲げ実践につなげている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し地域の行事にも積極的に参加している。また、地域の幼稚園・小中学校・保育園との交流会も定期的におこなっている。週末には、自治会が主催する市場に行き、入居者の嗜好に応じて買い物をしてもらっている。	利用者と共に、社会参加の環境作りを図るために地域の自治会との連携を主軸とし、幼稚園や学校との交流を持ち、地域の運動会や行事に積極的に参加している。また、ホームの行事に地域の伝統芸能を招き披露してもらい地域の文化を大切に交流も行われている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて認知症研修、口腔ケア研修、介護保険研修、高齢者のうつ病、特養看取りケア研修、感染症研修等を行い、認知症の方への理解を深めてもらっている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そでの意見をサービス向上に活かしている	自治連合会長、地域包括支援センター職員、民生委員、ご家族、ご本人等にも出席してもらい認知症研修、口腔ケア研修、介護保険研修、高齢者のうつ病、特養看取りケア研修、感染症研修など毎回研修も行い、地域福祉に役立てていただいている。また、地域の方や家族の方から意見を頂きサービスの向上に反映できるように努めている。	運営推進会議は、自治会連合会長、民生委員、地域包括支援センター職員、1組の家族の参加を得て2か月に1回開催されている。家族から「もったいないので他の家族への参加も呼びかけては」との意見を尊重し前向きに取り組む考えである。	運営推進会議は、毎回充実した内容のプログラムで開催されており、是非多くの家族が参加できる会議になることを期待する。また外部評価の自己評価に全職員がかかわり、外部評価結果を家族に知らせるとともに会議で取り上げ、参加者の意見をサービスの質の向上につなげる取組みを期待する。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターと情報を密に交換している。直接市町村へ相談に行き、指導や助言を仰ぐこともある。	地域包括支援センターに出向き事故報告なども詳しく説明したり、重要事項説明書の変更を行なう場合に、相談にのってもらっている。運営推進会議にも毎回出席を得るなど連携を図っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年の目標であり常に尊厳の気持ちを持ち、入居者の人権を尊重するとともに、自立支援を行いつつ日常生活ケアの充実を図り、拘束のない介護を行っている。身体拘束についての研修を行い、職員の周知徹底を行っている。又、管理者等が気付いた事は根拠をもって職員に説明し納得して就業してもらう。	身体拘束をしない介護を最重要の取り組みとしており、職員は利用者に生命や怪我の心配がない限り見守りに徹し、言葉にも注意しながら否定しない介護を心掛けている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員一人一人が不適切な言動や行動がないかを振り返り、また、職員同士で声掛けを行いより良いケアを提供できるように努めている。職員が仕事での悩みを一人で抱えないように配慮しメンタルケアに法人全体で取り組んでいる。又、管理者が気付いた事は根拠をもって職員に説明し納得して就業してもらう。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修計画に沿った職員研修において法人で定めたガイドラインの理解を深めた上で周知を図っている。繰り返し行うことでさらに支援行っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、介護保険法改正によるサービス料改定時にはその都度、改定後の料金表と共に口頭にて説明を行い、家族から署名、捺印をいただいている。分からない事などは質問をいつでも受け付ける事を申し添えている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見承り箱を設け、匿名においても意見が集約できる体制を整えている。また、面会時に職員から声掛けを行い、家族が要望や意見を言いやすい環境を作るよう心がけている。家族会や運営推進会議で意見を述べてもらっている。本部事務所に来られたときにも事務所職員や管理者等からも声掛けを行い相談し易い関係の構築に勤めている。	ご意見箱を設けたり、家族が面会に来られた時に声かけし要望や意見が言いやすい環境づくりを心掛けている。消防署勤務の家族の意見から防犯や非常災害時に中央制御盤から一斉開閉ができる安全性を考え電子錠つきのドアに変えた経緯がある。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回寮母会議をし、毎回業務に関する意見を聞く機会を設け、様々な角度から介護サービスを見つめより良いケアに努めている。月に二回法人全体会議があり、意見発表の場を設けている。管理者は会議録、報告書などにおいて気付いたことは声掛けやメモにて思いをつたえたりしている。また、職員が伝えやすい雰囲気作りや個人面談も実施している。	寮母会議(職員会議)や日々の話し合いの中で職員から気づきや意見を聞く環境づくりができています。職員の提案から、収穫したさつま芋で「ういろう」を作ったり、看取り介護の利用者を特養の機械浴を利用しゆったり入浴してもらうなど職員の意見をサービスに活かしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員から意見が集約できる体制を整え、文章で掲示し代表、管理者で対応できない場合においては顧問弁護士などが対応する仕組みをとっている。また、個別に意見の集約に努め、働きやすい環境整備に配慮している。全体会議等からも発信を行い法人全体の雰囲気作りに努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員それぞれの能力に応じより一層スキルアップを図れるように外部研修に参加している。また、寮母会議、全体会議において職場内研修も行っている。月に二回復命発表の機会を設けている。資格取得等の際には補助制度も設けていて職員のスキルアップを法人で支えている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	老施協主催の地域密着サービス部門の研修会や交流会に参加している。機会があれば他法人の見学や電話で情報交換等も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接時にご本人からの意見や要望の確認に努めている。入居前には本人に見学していただき、出来る限り不安のないように安心して入居いただけるよう信頼関係を築いている。ケアマネジャー、介護職、管理者等他職種と連携してなじみの関係を作る努力を行っている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接時にご家族と本人にとの現在に至るまでの経緯や苦労話、又、人生観や好き嫌い、生活歴などを傾聴し今後の要望など確認に努めている。サービス内容の納得が得られるように配慮し、初期の信頼関係の構築に努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期のサービス提供時にはご本人に寄り添い傾聴、待つことを大切に観察を行い、家族と意向の確認や状態報告をし、コミュニケーションを密に良好な関係作りができるよう努めている。身体状況の変化も起こりやすいことから、かかりつけ医との連携も密に行っている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者と同じテーブルで食事をとったり膝を交えてお話ししたり等「安心してください。」と心からのメッセージを発する気持ちで家庭的な雰囲気作りに努めている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が参加できる行事を設け、家族ならではの支援ができるように配慮している。毎月の定期連絡の際に直近の情報を報告し可能な範囲でご家族からの支援をお願いしている。家族会や運営推進会議の出席を通して園の運営方針も説明しつつ信頼関係の構築にも努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活歴やその方考え、好き嫌いの把握に努め、その内容を職員が熟知、共有し日常生活の把握に努めている。入居前に併設デイサービスなどを利用頂いた方には馴染みの関係が途切れないように交流を図っている。	毎週訪問される息子さんと自宅に帰られる方や、家族とお墓参りに行かれる方もいる。遠方に住む利用者の姉妹も毎月ホームで会うのを楽しみに訪問されている。特に家族との交わりが重要だと考え関係継続を支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	馴染みの関係ができていたので、出来るだけ関係がうまくいくように席などを配慮している。また、職員がさり気なく誘導を行ったりし、共通の話題や季節の事等話の輪ができるように雰囲気作りに努めている。共同で行える行事やお手伝い等にも配慮を行っている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	葬祭時などには状況に応じて職員がお通夜、葬儀に参列し家族様へのねぎらいの言葉、ご縁を頂いたことへのお礼、今後も継続してご縁を頂く事を直接お願いする等丁寧に対応している。契約が終了した家族が来園した際には相談に応じ、ご紹介をいただけるような信頼関係の継続に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や趣味、特技、好みなどをご本人や家族から聞き取り、意向の把握に役立っている。慣れ親しんだ家具や物品などを居室に置き、その人らしい生活が送れるようにしている。職員間でご本人ことをしっかりと話し合いその方の思い、その方らしさに近づく努力を常にしている。	利用前に家庭訪問し家族から生活歴や好みなどを聞き取りバックグラウンドシートを作成するとともに、日々のケアの中での気づきを追加している。ある利用者がドライブが好きだったことを日々のケアの中で見出し、介護計画に組み込もうと考えている。	他の利用者についても同様に、思いが実現したり特技や楽しみごとが増えるような意向を把握するための更なる取組みを期待する。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族に希望を伺ったり、日頃の会話の中から好き嫌い、考え方、馴染みの把握に努めている。初回家庭訪問時に写真を撮ったり、地域の事、ご家族ご親戚の事など伺いご本人を知る努力を職員一丸となって行っている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カードックスや寮母連絡帳、受診連絡帳、口頭の申し送りなどで、経過や現状把握に努めている。また、ケアマネジャーと担当職員が定期的にモニタリングを行い、問題点や課題を抽出してサービス計画書を作成している。すべての職員が周知徹底できるよう、サービス計画書をカードックスにも挟んでいる。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意見を大切に、ケアマネジャー、担当職員等がご本人の日々の生活の中のケアの在り方や心の支援についてしっかり話し合い、ケアへの反映に努めている。介護計画の実行は職員全員で意識統一し、モニタリングについてもたくさんの職員と様々な意見交換を行い進めている。	利用者ごとに担当職員が決められており、モニタリングを行い、夜勤職員、家族、ケアマネジャーを交えて話し合い、3ヶ月ごとに介護計画書の見直しを行っている。職員は、利用者の気持ちを汲み取れているか常に考えながらケアに努めている。休憩室のボードに利用者個々の情報を書き出し共有している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カードックスや寮母連絡帳に記入し、情報を職員全員で共有しながら実践に生かしている。小さな変化も見落とさないように気づきを申し送りしている。管理者等も把握を行うよう努め目配り気配り心配りが出来ているか確認している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体の状態に応じて併設の特養への移行、老健への入所、在宅支援の復帰に努めている。また、馴染みの人との交流に重点を置き、併設のデイサービスの利用者との面会の機会を設けるなど生活の質の向上につながる柔軟な支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的な推進会議を通じ入居者が地域の運動会や行事に参加しやすい環境を地域の方に提供してもらっている。また、防災訓練においては地域の方の協力を得たり、近隣の事業所との関係強化、ボランティアの方への協力を依頼している。実際に協定を結び訓練の報告等を行っている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医が月一回定期検診をし、必要に応じて指示を仰ぎ往診などもしていただいている。専門医への紹介状なども書いていただいている。また、歯科衛生士が週1～2回訪問し口腔ケアを行っている。	かかりつけ医とは、24時間対応してもらえる関係を築いている。重大な診察内容は、医師から家族に説明がある。事業所は、特に口腔ケアに力を入れ最新の超音波口腔内洗浄器も備え専門家によるケアを行い利用者の健康、長寿につながる取り組みがなされている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーション看護師と連携し日々の様子を伝え助言、指示を仰いでいる。他職種合同研修会、月二回の全体会議において情報交換をおこなったり、アドバイスを受けている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際には介護サマリーなどで入居者の情報提供を行っている。また、必ず職員が付添い、直接医師や看護師に経緯等を伝えている。入院中は職員も頻りに面会に行き、馴染みの顔を見せる事で安心してもらっている。退院時の支援がスムーズに入るよう努力している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアの事例があり、終末期になればかかりつけ医と相談し訪問看護ステーション看護師も同席し看取りに付いての説明を行い、看取りの同意書をいただいている。会議を開き、職員間でケアの統一に努めている。また、家族にも協力して頂き、家族と共にケアすることを心がけている。	昨年は、医師、看護師、家族の協力を得ながら3名の看取りが行われた。12月1日よりターミナルケアに関する項目が契約書に追加される。ターミナルを経験した職員は、家族とともに自分の力で最期まで生き抜かれた利用者としてこの上なく感激したと述べている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当、急変時、事故発生時の研修、訓練を行っている。また、緊急連絡網を作成し、緊急時に備えている。職員一人ひとりが責任のある行動をとれるよう体勢を整えている。研修にも積極的に参加、最新の情報を得ることも意識している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回避難訓練を実施し、夜間想定訓練も行っている。定期的に火災報知器等の扱いについても研修を行っている。災害時マニュアル、緊急連絡網なども作成し、常備食や水も備えている。地域の消防団や他事業所との協定書を結ぶ等協力体制もある。また、地域の二次的な避難所として登録されている。スプリンクラーの設置もある。	年2回行う避難訓練は、近隣の方も参加してもらい、さまざまな場面を想定しながら行っている。夜間想定では、利用者全員にベッドに入ってもらい避難できるまでの時間を計測したこともある。非常時のために非常食、飲料水、オムツ等を備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念通り尊厳の気持ちを大切にし入居者一人ひとりに合わせた優しい声掛けを行い、プライバシーの保護に細心の注意を払っている。入浴介助には同性介護を心がけている。居室の扉にある小窓にも中が見えないように工夫するなど配慮している。	名字で声かけし、トイレへの誘導もさりげなく行っている。入浴も同性介助を心掛け一人ひとりを思うケアを実践している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出、行事参加など本人に選択していただけるよう自己決定の支援をしている。自己決定の困難な方は家族の希望や思いを伺ったり、今までの嗜好、生活歴をかんがみたり、本人の表情などから心の声を聞くよう努めている。この状況を行事報告書に反省点も踏まえて記録し次へつなげている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ドライブや外出などの希望があった時は出来るだけ対応できるよう努めている。起床時間や就寝時間もご本人のペースで過ごしていただいている。ご本人の体調や気分に合わせて日々穏やかに過ごしていただけるように心がけている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容の日が近くなるとご本人やご家族に髪型の希望を聞いている。また、ご家族が髪をカットしてくださる方もいる。外出時や行事の際におしゃれを楽しんでいただいている。「素敵ですね。いい色ですね。お似合いですね。」と積極的に声掛けを行い雰囲気づくりを大切にしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや後かたづけなど出来る事を職員と一緒にやっている。誕生日会の手作りケーキやお菓子作りを職員と一緒にやっている。畑の野菜の出来具合などにも話の花をさかせ期待できるような声掛け等を多くしている。	主菜は、特養の厨房で作られた料理を提供している。月に2、3回行われる昼食会では、ウナギ、焼き肉、お寿司等を楽しんでいる。利用者の希望で喫茶店に出向いたり、肉まんを食べに出かけることもある。利用者と一緒に作った干し柿が軒を飾っていた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量を毎食時記入し、水分も摂取のたびに記入している。また、その記録をケアプランに反映できるように心がけている。食事の進まない際には、同法人内の栄養士やかかりつけ医に相談し少しでも食欲がでるように工夫している。体調等ですぐれない時は無理強いせずご本人のペースに合わせる事も大切である。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前に口腔体操、毎食後に口腔ケアを行い、夜間は義歯消毒の為義歯を預かっている。週に1～2回歯科衛生士が口腔ケアと口腔チェックをしている。また、嘱託歯科医師による定期検診、治療、応急処置なども行っている。口腔体操は楽しく口腔ケアは気持ちよいさっぱりする等のプラスの感情を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりのプライバシーにしっかり配慮し排泄サインやパターンを把握しトイレ誘導を行っている。入居時紙パンツの方も排泄パターンを把握する事で失禁パンツに変更し、パットや紙パンツなどの不快感を取り除くよう心がけている。	排泄パターンを把握してトイレ誘導を行っている。職員の「おむつは穿かせたくない」という気持ちが強く、入居時「おむつ」使用だった利用者が家族と相談のうえトイレ誘導から始め、紙パンツから布パンツへと移行できた事例がある。夜もおむつ利用者はいない。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方には水分摂取量を増やしたり、散歩や運動する機会を増やしている。また、入浴時に腹部マッサージやトイレ誘導時にホットタオルで腹部を温めている。ヨーグルト、食物繊維等食品にも法人全体で気をつけている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回入浴をしてもらっている。入居者の希望や便失禁などで必要と思われる時は随時シャワー浴を行っている。入浴を拒否される方はタイミングや声掛けする職員を交代するなどして、快適に入浴できるよう支援している。機械浴での入浴は特養で行っている。	基本的には週2回入浴している。入浴中は、職員とのお話を、お風呂上りは、髪を乾かしたり、化粧水をつけたりゆっくり楽しみな時間となっている。家族や職員から頂いたゆずを使っのゆず湯も楽しみの一つである。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり自分のペースで就寝している。日中散歩や体操をして頂き、生活にリズムが作れるように支援している。なかなか眠れない方は寮母室で職員と話をしたり温かい飲み物を提供して、リラックスしていただいている。昼食後昼寝をしたい方には居室で休んでもらっている。ご本人のペースを大切にしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師により処方された薬の内容を受診連絡帳を使い職員間で周知徹底している。同時に訪問看護ステーションの看護師にも報告している。薬の変更などがあった時は、様子観察、記録を行い、次の受診時に報告している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴、過去の趣味、嗜好を職員が把握し、本人の出来る事好きな事を職員とともに楽しんでいただけるように取り組んでいる。役割作りにも取り組み、生活に活気がでるよう支援している。あまり興味のない事嫌いな事などマイナスの感情にも配慮しその人らしさに近づき努力をしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来るだけ毎日散歩や園庭にできるよう心がけている。また、本人の気分や体調に応じ特養や週末は近くの市場に買い物に出かけたりしている。時には車で喫茶店に出かける事もある。それまでの期待やその時の盛り上がりや充実感という感情を大切にしている。	隣接の特養まで毎日散歩したり天気の良い日には外庭でおやつを食べたり個別の初詣と希望に沿って行っている。全員でのお出かけも多く奈良公園、バラ園、布目ダム、月ヶ瀬の足湯、菖蒲園、花見や紅葉狩りも楽しんだ。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を持っていないと不安になる方は家族の了承を得て、所持していただいている。買い物でそのお金を使うこともある。買い物に出かけた際は本人にお金を払って頂けるように支援し、生活習慣継続の支援に努めている。できるだけ日常の生活観を出すよう心がけている		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じ、電話をしたり手紙を書いたりできるように支援している。家族にも協力を仰いでいる。意思の疎通が困難な場合や伝わりにくい場合は職員が間に入り支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有スペースの天窓にはブラインド使用し光の調節を行っている。ホールの東側には広い窓があり、四季折々の風景を眺めたり、四季を感じられるよう配慮している。職員の声の大きさや言葉遣いにも気をつけ快適な日常生活を送れるよう努めている。オンブズマンや他事業所の方の気付きに積極的に耳を傾け自己満足に陥らないよう心がけている。	広々とした居間の一角にキッチンが併設され廊下の両側に居室が並んでいる。天窓や大きな窓からは光が入り明るく四季の景色も楽しむことができる。ゆったりとしたソファが置かれ壁には、皆さんで手作りした大きな作品が飾られ、それぞれお好きな場所でくつろがれている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士が話しやすいようにきっかけを作ったり場面の設定を行ったりしている。また、共有スペースでも一人ひとりが自由にリラックスできる雰囲気作りに努めている。職員の存在が大きくなるよう入居者様中心のグループホームであるよう心がけている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人の馴染みの物を持ってきてもらい、今までと変わらない環境作りに努めている。食器や箸も自宅で使用していたものを持ってきていただいている。日中窓をあけ、空気の入替えをしている。ご本人の落ち着ける場所であるよう配慮している。	クローゼットと洗面台が備え付けられた居室は清潔に保たれ利用者の好みの家具やテレビ、飾り物や縫いぐるみが置かれその人らしい居場所になっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーで自分の居室がわかるよう表札や目印をつけている。トイレなどもわかりやすく表示している。ヒヤリハットや事故報告書の記録をしっかり行いご家族様への報告、分析を行い同じ繰り返しが起こらないよう職員で意思統一を行う努力をしている。		